

# 国史跡指定記念 午王山遺跡展

## 記念講演会・関連講座 資料集



### <記念講演会>

令和5年10月7日(土) 12:00～16:10

和光市民文化センター 小ホール

### <関連講座>

令和5年10月22日(日) 13:00～16:15

和光市民文化センター 会議室A・B

2023

和光市教育委員会・(公財)和光市文化振興公社

## 例 言

- 1 本冊子は、令和5年10月5日から10月29日までの期間、和光市民文化センターで開催の、「国史跡指定記念 午玉山遺跡展」に伴う記念講演会・関連講座の資料集です。
- 2 記念講演会は、令和5年10月7日（土）和光市民文化センター 小ホールで開催します。
- 3 関連講座は、令和5年10月22日（日）和光市民文化センター 会議室A・Bで開催します。
- 4 本展示及び記念講演会・関連講座は、和光市教育委員会が主催し、（公財）和光市文化振興公社と共催するものです。
- 5 本展示及び記念講演会・関連講座は、「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業補助金」の交付を受けて実施するものです。
- 6 記念講演会の楽器演奏については、（公財）和光市文化振興公社が演奏者調整及び演出に当たりました。
- 7 本冊子の編集は、和光市教育委員会生涯学習課が行い、執筆及び資料作成は各講師・発表者が行いました。

## 記念講演会 次第

■日時：令和5年10月7日（土）12時00分～16時10分

■場所：和光市民文化センター 小ホール

■定員：220名（事前申込制）

開場・受付開始 12時00分

開会 12時30分

開会のあいさつ 和光市長 柴崎光子

### 【プログラム】

①「午王山遺跡の概要」（約10分）

鈴木一郎（和光市教育委員会）

②「国史跡 午王山遺跡の時代」（約40分）

石川日出志（明治大学文学部 教授）

～休憩・質問票受付（約10分）～

③「午王山遺跡の弥生土器を読みとく」（約40分）

柿沼幹夫（一般財団法人 さいたま市遺跡調査会 理事長）

④「環濠集落 午王山遺跡」（約40分）

小倉淳一（法政大学文学部 教授）

～休憩・質問票受付（約10分）～

⑤《楽器演奏》「いにしへの音と祈りの音楽～銅鐸と尺八～」(約20分)

元永 拓・滝野瀬あゆか

⑥「午王山遺跡の保存と活用」（約10分）

山本 龍（和光市教育委員会）

⑦質疑応答（約20分）

閉会

閉会のあいさつ 和光市教育委員会 教育長 石川 毅

## 関連講座 次第

■日時：令和5年10月22日（日）13時00分～16時15分

■場所：和光市民文化センター 会議室A・B

■定員：45名（事前申込制）

開場・受付開始 13時00分

開会 13時30分

開会のあいさつ

### 【プログラム】

①「午王山遺跡と弥生時代の祭祀について」（約40分）

鈴木敏弘（和光市文化財保護委員会副委員長）

②「午王山遺跡発掘調査概要報告」（約20分）

鈴木一郎（和光市教育委員会）

～休憩（約15分）～

③「午王山遺跡のイネ・アワ・キビ ―和光市周辺での農耕のはじまり―」（約40分）

遠藤英子（明治大学黒耀石研究センター客員研究員）

④「午王山遺跡の今後の展開」（約15分）

山本 龍（和光市教育委員会）

⑤質疑応答（約15分）

閉会

閉会のあいさつ

# 目次

例言

記念講演会次第

関連講座次第

目次

記念講演会（令和5年10月7日）

「午王山遺跡の概要」	4
鈴木一郎	
「国史跡 午王山遺跡の時代」	9
石川日出志	
「午王山遺跡の弥生土器を読みとく」	10
柿沼幹夫	
「環濠集落午王山遺跡」	22
小倉淳一	
《演奏》「いにしへの音と祈りの音楽～銅鐸と尺八～」	27
元永 拓・流野瀬あゆか	
「午王山遺跡の保存と活用」	29
山本 龍	

関連講座（令和5年10月22日）

「午王山遺跡と弥生時代の祭祀について」	31
鈴木敏弘	
「午王山遺跡発掘調査概要報告」	33
鈴木一郎	
「午王山遺跡のイネ・アワ・キビ —和光市周辺での農耕のはじまり—」	36
遠藤英子	
「午王山遺跡の今後の展開」	37
山本 龍	



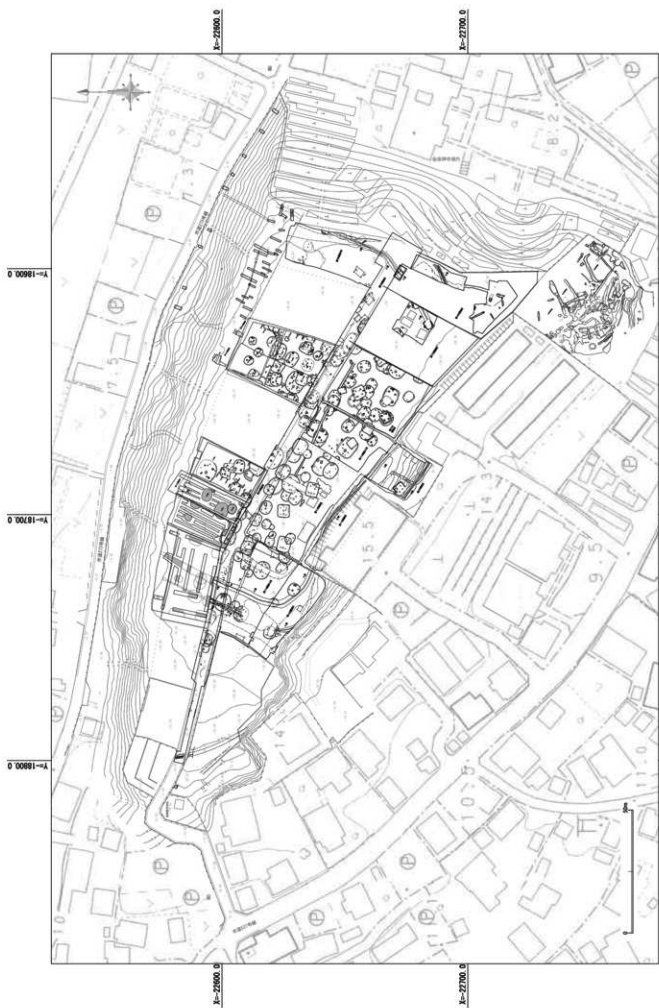


圖 1 牛王山生態林園

## 午玉山遺跡の沿革

数万年前	武蔵野台地が、湧水や河川により切り離され午玉山が独立丘となる。
約1万2千年～2万年前	午玉山人が暮らしはじめる。ローム層の中から礫群、石器集中などの旧石器時代の遺構が検出される。
約7千年前	縄文時代早期末葉、竈穴が作られる。
約5千年前	縄文時代中期中葉、阿玉台式土器が出土する。
紀元前1世紀ごろ	弥生時代中期後半、宮ノ台式期の集落が出現する。
1世紀ごろ	弥生時代後期前葉の集落（岩鼻式と久ヶ原式の共存）が出現する。
2世紀ごろ	弥生時代後期中葉の集落（下戸塚式）が出現する。この頃環濠が掘削される。
7世紀ごろ	弥生時代後期中葉の後半には、環濠が埋められ、その上に住居が建てられる。
天保宝字2年（758）	古墳時代後期の集落が出現する。
8～9世紀	新羅からの帰化人を集め新羅郡が置かれる。『続日本紀』（朝霞地区四市一帯）
14・15世紀	奈良・平安時代の集落が出現する。
江戸時代	中世の板群葬が東側の緩斜面に遺造される。
1966年	「新編武蔵風土記稿」の新倉村の項に牛房山を新羅王居跡とする伝説が記載される。
1968年	谷井彪「大和町新倉午玉山出土の弥生式土器」『埼玉考古』第4号にて午玉山遺跡の土器が報告される。
1968年	谷井彪・高山清司「大和町の遺跡と出土遺物（弥生時代・古墳時代）」『埼玉考古』第6号にて午玉山遺跡の土器が報告される。
1971・1972年	埼玉県で行われた、県内の遺跡台帳整備に伴う埋蔵文化財包蔵地の分布調査により、1972（昭和47）年8月24日に現地踏査が行われ、埋蔵文化財包蔵地台帳に登録され、法的な周知の埋蔵文化財包蔵地となる。
1978～1979年	第1次調査、方形周溝墓のほか板群葬検出
1981年	第2次調査、1号溝（現A溝）、2号溝（現A溝）、6号溝（現B溝）、5号溝（現C溝）が、環濠として認識された。この調査で、岩鼻式土器出土の住居跡と、ハケ刺突文が施される下戸塚式土器の住居跡があることが判明した。

## 発掘調査経歴、図2午玉山遺跡調査一覧 参照

2010（平成22）年11月	午玉山遺跡地内の306㎡の土地を公有地化
2011（平成23）年4月	前年度公有地化した306㎡の土地を対象として第15次調査を実施
2013（平成25）年4月	第15次調査地点（306㎡）ガ和光市指定文化財（史跡）に指定となる。
2017（平成29）年3月31日	「午玉山遺跡発掘調査出土の弥生時代遺物」が和光市指定文化財（考古資料）に指定となる。
2018（平成30）年2月27日	市指定107点を含む、121点が埼玉県指定文化財（考古資料）に指定となる。
2019（平成31）年1月	午玉山遺跡の本質的価値を明らかにし、今後の保存と活用の基礎資料とするため、午玉山遺跡総括報告書策定委員会を設置する。
2019（令和元）年6月	『午玉山遺跡総括報告書』を刊行。総括報告書の刊行と同じくして、文部科学大臣あての国指定史跡の意見具申の準備を進める。午玉山遺跡の地権者、関係者へ、午玉山遺跡の国指定史跡についての説明会を開催、午玉山遺跡についての理解を深めるとともに史跡指定に対する同意を進める。
2019（令和元）年7月26日	午玉山遺跡の史跡指定について文部科学大臣宛に意見具申書を提出する。



2020（令和2）年3月10日	午王山遺跡が国史跡に指定される。
2020（令和2）年8月	史跡を適切な保存活用を行うため、『史跡午王山遺跡保存活用計画』策定の策定委員会を設置し、検討会議を行う。
2021（令和3）年3月26日	国史跡追加指定
2022（令和4）年3月18日	『史跡午王山遺跡保存活用計画』完成。
2022（令和4）年11月10日	国史跡追加指定
2022（令和4）年7～9月	保存目的の第16次調査を行う。
2023（令和5）年10月5～29日	「国史跡指定記念 午王山遺跡展」開催

年度	調査	調査期間	地番	調査面積	主な遺構・遺物	調査原因	担当者	報告書
1978～1979 (昭和53～54)	第1次	1979.3.20 ～6.16	新倉3丁目 2867-1外	約2,200㎡	弥生時代の方形周溝 墓3基、中世の火葬墓 5基・板碑45基	宅地造成	鈴木敏弘	・新倉午玉山遺跡 ・にいくらごぼ うやま1979
1981 (昭和56)	第2次	1981.8.10 ～11.30	新倉3丁目 2836-1外	約1,500㎡	弥生時代の住居跡49 軒・溝3条	市道改良 工事	鈴木敏弘	・和光市埋文報告 書第9集 ・にいくらごぼ うやま1982
1992 (平成4)	第3次	1993.3.1～ 3.26	新倉3丁目 2861-1	約272㎡	弥生時代の溝2条、銅 鐸形土製品、古墳時 代の住居跡1軒	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第13集
1993 (平成5)	第4次	1993.8.30 ～9.22	新倉3丁目	約510㎡	弥生時代の住居跡7 軒・溝2条	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第13集
1994 (平成6)	第5次A 区	1994.6.30 ～9.2	新倉3丁目 2836-1	約800㎡	弥生時代の住居跡2 軒・溝1条	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第18集
1994 (平成6)	第5次B 区	1994.6.30 ～9.2	新倉3丁目 2842-1、 2843-1	約594㎡	弥生時代の住居跡13 軒・溝2条、銅鐸形土 製品・土鈴	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第18集
1995～1996 (平成7～8)	第6次	1996.2.13 ～8.30	新倉3丁目 2841-1、 2842-1	約1,119㎡	弥生時代の住居跡25 軒	農地改良	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第23集
1997 (平成9)	第7次	1998.3.17 ～3.25	新倉3丁目 2847-1、 2861-2	約105.6㎡	弥生時代の溝1条、銅 鐸形土製品	共同住宅 建設	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第31集
2000 (平成12)	第8次	2000.4.3～ 7.18	新倉3丁目 2839-1	約787㎡	弥生時代の住居跡24 軒	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第33集
2000～2001 (平成12～13)	第9次A 区	2001.2.13 ～6.10	新倉3丁目 2832-1	約368㎡	弥生時代の住居跡9軒	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第35集
2000～2001 (平成12～13)	第9次B 区	2001.2.26 ～6.29	新倉3丁目 2840-1	約479㎡	弥生時代の住居跡16 軒	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第35集
2004 (平成16)	第10次	2004.11.1 ～11.26	新倉3丁目 2837-1	約567㎡	弥生時代の住居跡1 軒・溝2条・方形周溝 墓2基	宅地造成	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第57集
2004 (平成16)	第11次	2004.11.16 ～12.24	新倉3丁目 2838-1	約178㎡	弥生時代の住居跡1 軒・溝1条	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第39集
2004～2005 (平成16～17)	第12次	2005.1.28 ～5.9	新倉3丁目 2834-1	約400㎡	弥生時代の住居跡11 軒、土製勾玉・ヒナア 土製品	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第40集
2006 (平成18)	第13次	2006.8.16 ～8.24	新倉3丁目 2825-3	約5㎡	弥生時代の溝1条	市道拡張 工事	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第38集
2006～2007 (平成18～19)	第14次	2007.3.5～ 5.11	新倉3丁目 2834-1	約684㎡	弥生時代の住居跡16 軒、土製の小玉・双 角有孔土製品	農地改良	鈴木一郎 前田秀則	和光市埋文報告 書第42集
2011 (平成23)	第15次	2011.4.26 ～4.28	新倉3丁目 2831-1	約306㎡	弥生時代の住居跡6 軒・土坑2基	保存目的 確認調査	鈴木一郎	和光市埋文報告 書第46集
2022 (令和4)	第16次	2022.8.2～ 9.22	新倉3丁目 2811-1、 2812-1	約108㎡	断面V字溝確認	保存目的 確認調査	山本 龍 鈴木一郎	整理中

図2 午玉山遺跡調査一覧

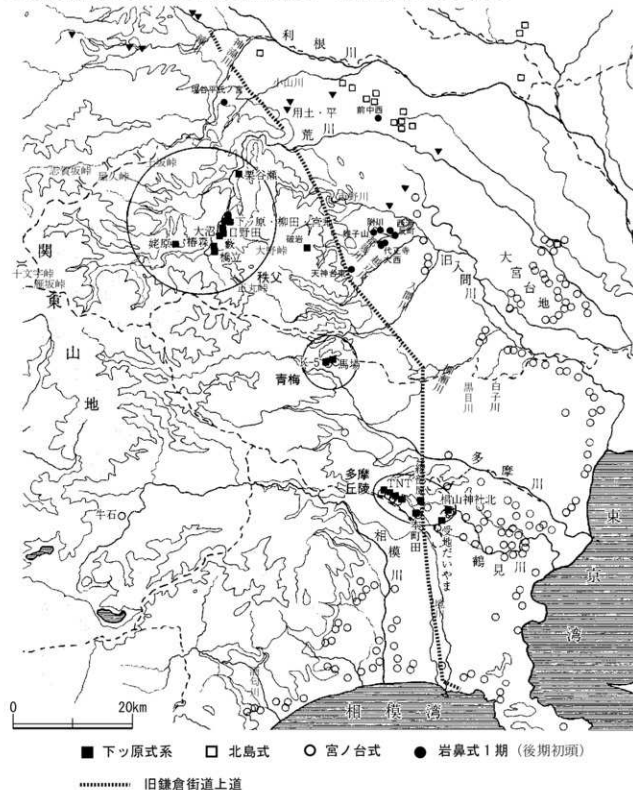
# 国史跡 午王山遺跡の時代

石川 日出志  
(明治大学文学部)



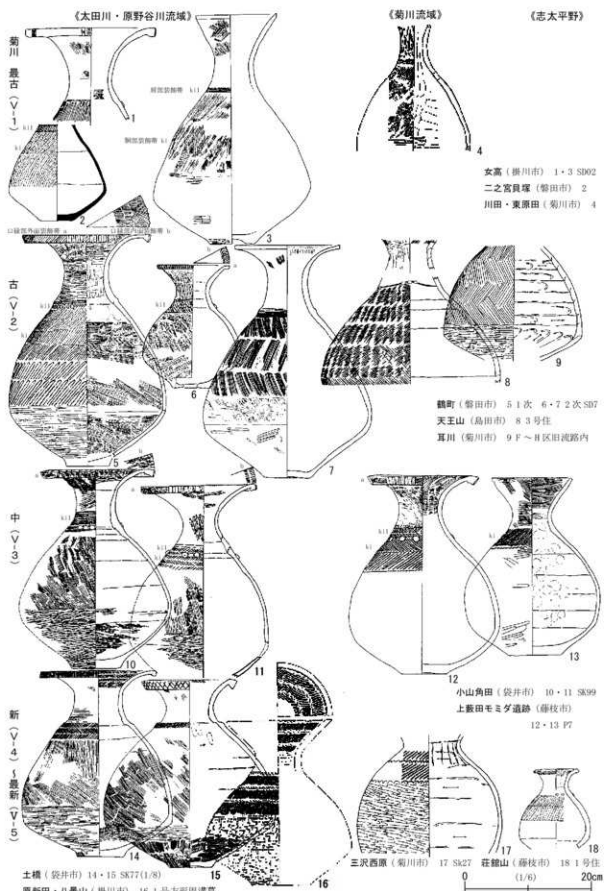


### 3. 関東西部周辺の弥生時代中期後半から後期への移行時における遺跡分布



3 関東西部周辺の弥生中期後半から後期への移行時における遺跡分布

荒川中流域右岸地域の弥生時代後期初頭の岩鼻式土器の生成には、長野県北東部（北信・東信）から群馬県西部地方との関わりが深い。その一方で、関東西部山地や多摩丘陵との関係性も強く、相互間の交流ルートとして後世の鎌倉街道上道沿いの「山辺の道」の存在を想定したい。岩鼻式土器を継承する後期中・後葉の吉ヶ谷式土器の段階にも、多摩丘陵との活発な交流が看取できる（上図は石川 2007 から転載・付加）。



土橋 (袋井市) 14・15 SK77(1,8)

原新田・八景山 (掛川市) 16 1号方形周溝墓

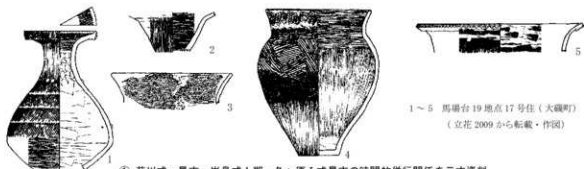
女高 (掛川市) 1・3 SD02  
 二之宮良塚 (磐田市) 2  
 川田・東原田 (菊川市) 4

鶴岡 (磐田市) 5 1次・6・7・2次 SD7  
 天王山 (島田市) 8 3号住  
 耳川 (菊川市) 9 F~H 区田尻路内

小山角田 (袋井市) 10・11 SK99  
 上飯田モミダ遺跡 (藤枝市)  
 12・13 P7

三沢西原 (菊川市) 17 SK27  
 荏籠山 (藤枝市) 18 1号住  
 (1/6) 20cm

4 菊川式土器 壺の編年 (抄) (福原 2000・2001・2002 をもとに作図)



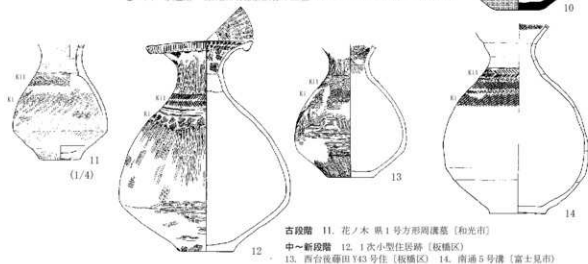
1～5 馬場台19地点17号住(大磯町)  
(立花 2009 から転載・作図)

① 菊川式・最古-岩鼻式1期-久ヶ原I式最古の時間的併行関係を示す資料



6. 12号住 7. 9号土坑 8. 7号土坑 9・10. 2号土坑

② 下戸塚遺跡 集落形成開始期の土器 (松本 1996 から転載・一部作図)



古段階 11. 花ノ木 第1号方形周溝墓 (和光市)

中～新段階 12. 1次小型住居跡 (板橋区)

13. 西台後藤田Y43号住 (板橋区) 14. 南浦5号溝 (富士見市)

③ 菊川式土器の移動品又は忠実な模倣品 (石坂 1994、小林理 1995、石川・藤波・他 1999、佐々木・小出・他 1984 から転載・付加)

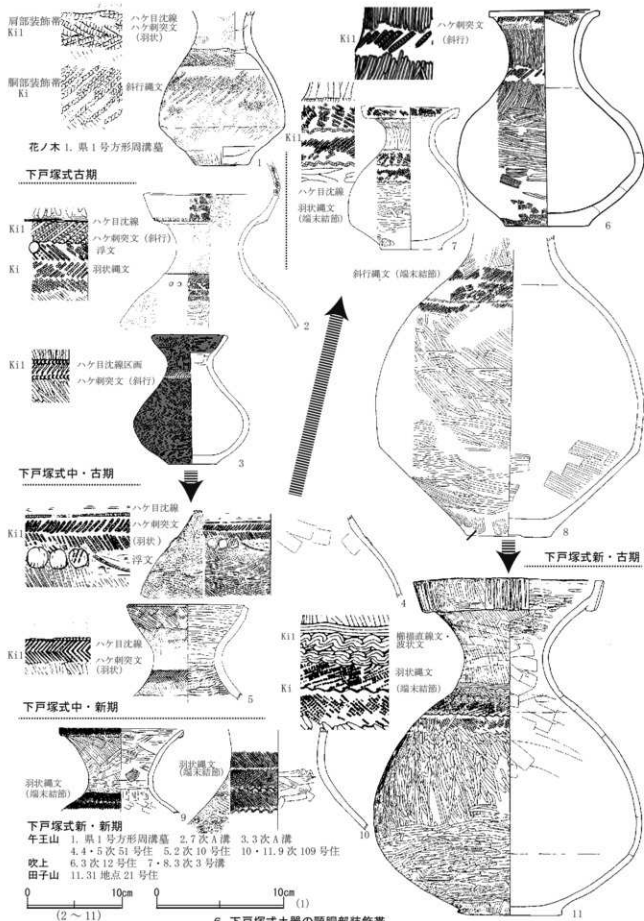


5 下戸塚式土器生成に関わる土器群

武蔵野台地東北線における岩鼻式土器の南下と菊川式土器の東遷は、後期初頭までは測らない。

- ① 後期初頭における菊川式最古-岩鼻式1期-久ヶ原I式最古の関係を示す相模における出土事例。3・4は中部高地型櫛描文土器でも甲斐系統だが、岩鼻式1期と併行するとの考えから代替している。
- ② 下戸塚遺跡における集落形成開始期の主な土器で、量的に少ない。出土遺構も土坑が多く、時的にも菊川式最古(V-1)まではいかない。本格的な環濠集落形成期は下戸塚2期で後期前葉の後半段階とみられる。
- ③ 菊川式の東遷も継続的だが波状的で、11はV-2、12がV-3、13・14はV-3期でもモミダ型と呼ばれる西駿河系統である。東海東部からの情報伝達は継続的に更新されたが、その発信地は東駿河も含めた広域に及ぶ可能性を考慮する必要がある。





6 下戸塚式土器の頸部裝飾帯

下戸塚式新・新期  
 午王山 1. 系1号方形周溝墓 2. 7次A溝 3. 3次A溝  
 4. 4・5次51号住 5. 2次10号住 10・11.9次109号住  
 吹上 6. 3次12号住 7・8. 3次3号溝  
 田子山 11. 31地点21号住

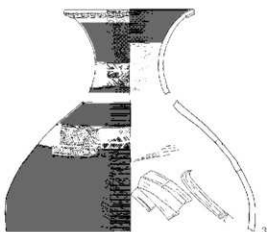
下戸塚式中・古期に伴う久ヶ原Ⅱ式古段階



沈線区面羽状縄文帯内に自縄結節文+山形文

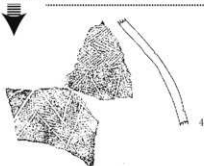


沈線区面羽状縄文帯に接する上向き鋸歯文縄文帯

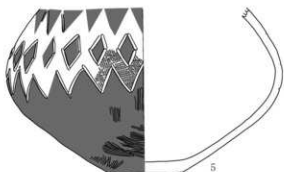


沈線区面羽状縄文帯（二帯型）

久ヶ原Ⅱ式新段階  
下戸塚式中・新期に伴う

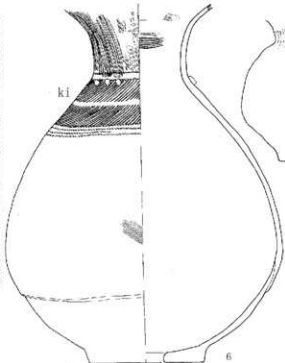


沈線区面羽状縄文帯に接する単節縄文山形文



単節縄文沈線区面菱形文

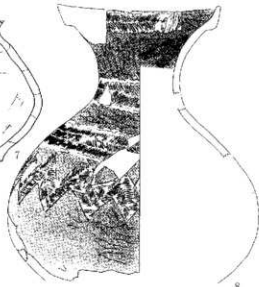
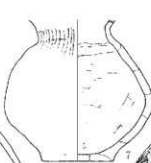
下戸塚式新・古期に伴う久ヶ原Ⅱ式新段階



ki



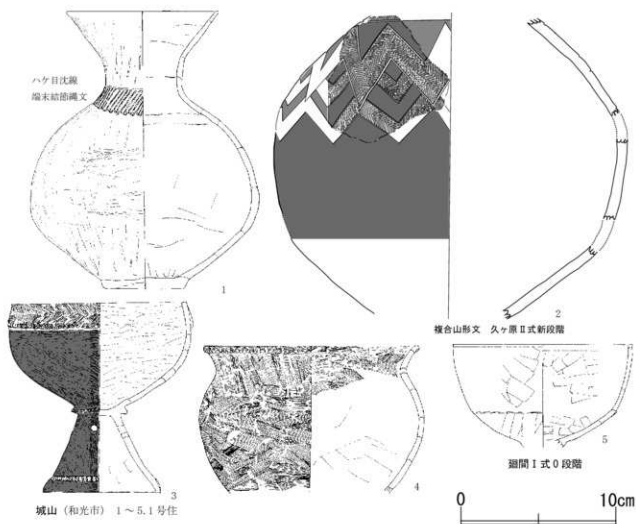
モミダ型壺  
(ボタン状淨文と端末結節縄文)



結節文区面羽状縄文帯（二帯）+羽状縄文山形文

- 午玉山 1.8次91号住 14次144号住 3.7次A溝  
4.4次50号住
- 吹上（和光市） 5.3次2号溝
- 東台（富士見市） 6・7・8.2台方形周溝墓

7 下戸塚式土器中期と久ヶ原Ⅱ式土器との時間的關係



8 下戸塚式新・古期と東海西部系高環との時間的關係

午王山遺跡の環濠集落形成期は下戸塚式中期で、その様相により中・新期に二分される。

**下戸塚式中期** 下戸塚式古期の装飾は、肩部裝飾帯(Ki1)と胴部裝飾帯(Ki)の分離が明確であるが、中期には胴肩部に裝飾帯がまとまり、Ki1とKiが一体化し簡略化が進む。簡略化の度合いにより、古・新に二分される。

① 古段階 一体化したKi1とKiはボタン状浮文を挟んで上下に位置する。Ki1のみの壺も、ハケ目沈線で上下区画するものが主体的である。

② 新段階 一体化したが、ボタン状浮文から下部を省略するなどKi1のみの構成となる。

また、ハケ目沈線区画したモノは上位区画のみで、下位は省略される。

**下戸塚式新期** 端末結節文が盛行する段階で、古・新に二分される。古段階は東海地方西部の廻間I式0段階前後に併行する(図8)。

① 古段階 ハケ目沈線は残るが、沈線区画しない単斜方向のハケ刺突文が主体。モミダ型壺の影響を受けて端末結節の斜行縄文が盛行。S字状結節文区画の久々原式系土器が伴う。

② 新段階 端末結節とともに羽状縄文構成が目立ち、東海型櫛描文との併用がある。ハケ刺突文の去就は検討課題。幅広複合口縁やS字状結節文区画など弥生町式土器に繋がる。

表 午王山遺跡とその周辺域 弥生時代中期後葉から後期末の編年試案

土器型式	武蔵野台地東北縁(白子川・黒目川・柳瀬川流域)		北武蔵		南武蔵南部	東海	
	午王山遺跡・遺構	近隣遺跡・遺構	人間・比企	妻沼低地			
宮ノ台式	III期	—	花ノ木4次10住	宮ノ台式 (代正寺寺)	北島式	宮ノ台式III期	白岩式
	IV期	—			用上・平式	宮ノ台式IV期	
	V期	82住、87住、133住	新屋敷第1地点6住		宮ノ台式V期		
岩鼻式1期	—		岩鼻式1期		久ヶ原1式古	菊川式最古	
岩鼻式	2期古	1住、3住、72住、97住	永川神社北方	岩鼻式2期古			菊川式古
	2期新	74住、108住、124住、137住		岩鼻式2期新			
	3期	81住、105住、141住、(18住、119住)	稲荷山・郷ノ9地点1住	岩鼻式3期	久ヶ原1式新		
下戸塚式古	—	花ノ木根1号方形周溝墓					
下戸塚式中・古		4住、8住、9住、11住、20住、24住、27住、57住、59住、68住、73住、75住、84住、86住、90住、91住、93住、100住、107住、110住、113住、118住、121住、128住、129住、138住、144住、A溝(3次2溝・7次2溝・5次A区1溝)	次上3次26住・41住 四ツ木4次30住	吉ヶ谷1式1期  吉ヶ谷1式2期	久ヶ原II式古	菊川式中 山II式	
	下戸塚式中・新	5住、10住、12住、14住、16住、30住、42住、44住、50住、51住、52住、58住、63住、69住、77住、78住、88住、92住、95住、130住、132住、142住、146住、A溝(4次2溝・5次B区2溝・2次1溝・10次1溝・11次1溝)	中道・岡台3地点1溝 新屋敷1地点3住				吉ヶ谷1式3期
下戸塚式新・古	19住、62住、(101住)	次上3次12住、3次3溝 地山1住 東台3号方形周溝墓	吉ヶ谷2式1期			廻間I式	
下戸塚式新・新	23住、96住、104住、109住、114住	田子山31地点21住			久ヶ原III式		
弥生町式 古	—	南通3地点105住 西原大塚349住	吉ヶ谷2式2期				
弥生町式 新	—	市場峠・市場上18・19地点41住 北通38地点61住					
前野町式 古	—	市場峠・市場上24次80住 富士前15地点1号住 南通3地点129住	吉ヶ谷3式古	日古台		廻間II式 前半	
前野町式 新	—	南通3地点109住 成増一丁目2号住	吉ヶ谷3式新			廻間II式 後半	

\* 宮ノ台式 安藤(1990)、久ヶ原式(安藤2017)、北武蔵(柿沼2023)、菊川式(藤原2001)、廻間式(赤塚2002)

《参考・引用文献》

- 赤塚次郎 2002 『Ⅱ 濃尾平野における弥生時代後期の土器編年』『八王子遺跡 考察編』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第92集 pp.25-48 財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター
- 安藤広道 1990 『神奈川県下末吉台地における宮ノ台式土器の細分』上・下『古代文化』第42巻第6・7号 古代学協会
- 安藤広道 2009 『東京湾西岸～相模川流域の後期弥生式土器の検討』『南関東の弥生土器2—後期土器を考える—』考古学リーダー 16 pp.114-128 関東弥生時代研究会・埼玉弥生土器観会・八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房 pp.279-286 西相模考古学研究会 西川修一・古屋紀之編 六一書房

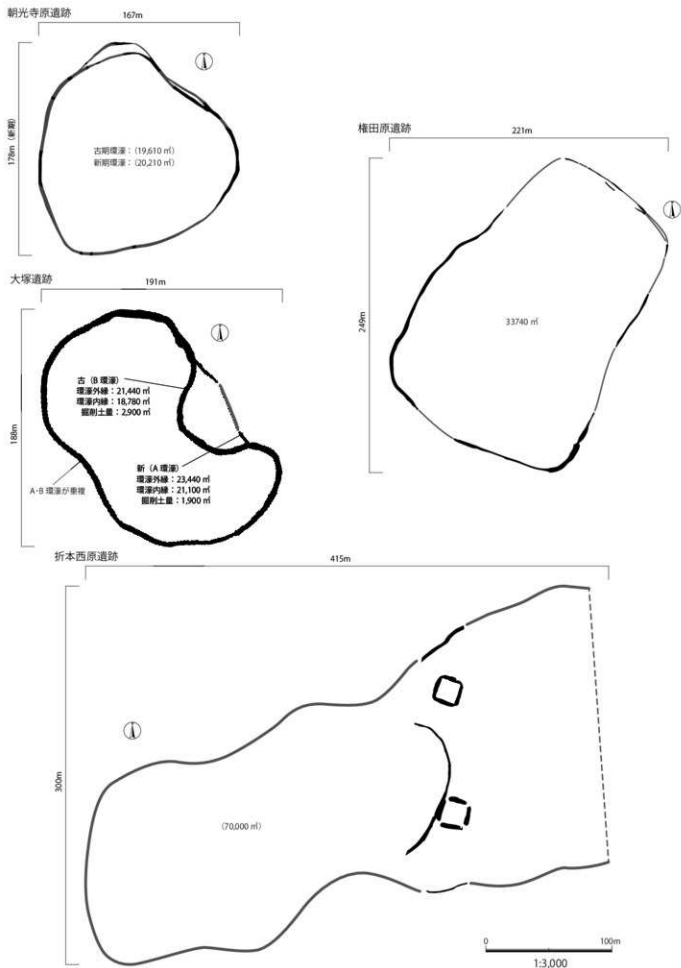
- 安藤広道 2017「久ヶ原遺跡と久ヶ原式土器」『土器から見た大田区の弥生時代—久ヶ原遺跡発見、90 年—』pp.152-161 平成 28 年度特別展 大田区立郷土博物館
- 石川日出志・藤波啓容・他 1999『西台後藤田遺跡発掘調査報告書—第 1 地点—』東京都住宅局、都内第二遺跡調査会 西台遺跡調査団
- 石川日出志 2007「弥生時代中期後半の関東地方西部域」『さいたまの弥生時代』pp.226-248, 埼玉弥生土器観会編
- 石川日出志 2008「『弥生時代』の発見 弥生町遺跡」シリーズ「遺跡を学ぶ」050 新泉社
- 石川安司・柿沼幹夫・宅間清公 2017「ときがわ町破岩遺跡—関東地方西部域 弥生時代中期末葉の遺跡・遺物の一事例—」『埼玉考古』第 52 号 pp.19-30 埼玉考古学会
- 石坂俊郎・他 1994『花ノ木・向原・柿ノ木坂・水久保・丸山台』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 134 集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 市毛 勲・車崎正彦・松本 完・他 1996『下戸塚遺跡の調査』第 2 部 早稲田大学校地理蔵文化財調査室編 早稲田大学
- 江原 順 1998「朝霞市郷戸遺跡出土の土器」『あらかわ』創刊号 あらかわ考古談話会
- 照林敏郎・江原 順 2002「中道・岡台遺跡第 3 地点発掘調査報告書」朝霞市埋蔵文化財調査報告書第 20 集 朝霞市教育委員会
- 大磯町編 2007『大磯町史 10 別冊 考古』
- 大村 直 2004『市原市山田橋大山台遺跡』市原市文化財センター調査報告書第 88 集
- 尾形敏則 1998「志木市田子山遺跡の弥生時代後期の事例について—田木山遺跡第 31 地点の弥生時代 21 号住居跡出土の資料—」『あらかわ』創刊号 pp.35-53 あらかわ考古談話会
- 尾形敏則 1999「第 3 章 富士前遺跡第 15 地点の調査」『志木市遺跡群 9』志木の文化財第 27 集 pp.16-21 埼玉県志木市教育委員会
- 柿沼幹夫 2006「岩鼻式土器について」『土曜考古』第 30 号 pp.1-28 土曜考古学研究会
- 柿沼幹夫 2009「補足・意見」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』考古学リダー 16 pp.192 - 202 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房
- 柿沼幹夫 2023「北武蔵の弥生後期土器 吉ヶ谷式土器」前橋市粕川歴史民俗資料館令和 4 年度秋期企画展関連講座レジュメ
- 栗原文蔵・野部徳秋 1973『岩の上・雉子山』埼玉県遺跡発掘調査報告書第 1 集 埼玉県教育委員会
- 黒沢 浩 2003「神奈川県二ッ池遺跡出土弥生土器の再検討—二ッ池式土器の提唱—」『明治大学博物館研究報告』第 8 号 pp.21-58 明治大学博物館事務室
- 黒沢 浩 2005「南関東における弥生時代後期土器群の動向—二ッ池式土器の検討を中心に—」『駿台史学』第 124 号 pp.49-72 駿台史学会
- 小出輝雄 1978「富士見市中央遺跡群 I」文化財調査報告第 15 集 富士見市教育委員会
- 小出輝雄 1983『針ヶ谷遺跡群—南遺跡第 3 地点の調査—』富士見市遺跡調査会調査報告第 21 集 富士見市遺跡調査会
- 小出輝雄 2006「埼玉の弥生後期土器についての一考察（予察）」『埼玉の考古学 II』pp.251-260 埼玉考古学会編 六一書房
- 小林理恵 1995「西台遺跡」『板橋区史 資料編 1 考古』pp.502-507 板橋区
- 埼玉考古学会編 1976『埼玉県土器集成 4』
- 今泉泰之「附川遺跡」pp.31-32 図版 7
- 齋藤あや 2017「土器から見た大田区の弥生時代」平成 28 年度図録 大田区立郷土博物館
- 齋藤 純 2010「第 8 章 稲荷山・郷戸遺跡第 9 地点の調査」『朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告集』朝霞市埋蔵文化財調査報告書第 33 集 朝霞市教育委員会
- 齋藤瑞穂 2010「下戸塚式という視点」『古代』第 123 号 pp.53-72 早稲田大学考古学会
- 齋藤瑞穂 2018「第 9 章 下戸塚式という視点—関東地方後期弥生土器型式の提唱—」『弥生土器型式細別論』pp.140-159 同成社

- 佐々木保俊・小出輝雄 1984『針ヶ谷遺跡群』富士見市遺跡調査会調査報告第23集 富士見市遺跡調査会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳『西原大塚遺跡Ⅱ』埼玉県志木市西原特定土地区画整理組合 埼玉県志木市教育委員会
- 笹森紀己子 1984「久ヶ原式から弥生町式へ—壺形土器の文様を中心に—」『土曜考古』第9号 pp.17-40 土曜考古研究会
- 佐原 真 1987「9 補塙 2.B. 遠賀川系土器の技法」『弥生文化の研究』4 弥生土器Ⅱ pp.218-222 雄山閣
- 鮫島和大 1994「南関東弥生後期における縄文施文の二つの系統」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第12号
- 篠原和大・山下英郎 2000「静岡県における後期弥生土器の編年」『東日本弥生時代後期の土器編年』[第1分冊] pp.72-197 東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 福島県立博物館
- 篠原和大 2001「駿河地域の後期弥生土器と土器の移動(補遺)」『シボジム 弥生後期のヒトの移動～相模湾から広がる世界～』資料集 pp.58-67 西相模考古学研究会
- 篠原和大 2002「第1部 各地域の様式と編年5(2) 東遠江 第V様式」『弥生土器の様式と編年 東海編』pp.589-610 加納俊介・石黒立人編 木自社
- 篠原和大 2009「南関東・東海東部地域の弥生後期土器の地域性—とくに菊川式土器の東京湾北東岸への移動について—」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』pp.246-254 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷研究会編 六一書房
- 設楽博己 2011「弥生式土器の発見」『弥生誌—向岡記碑をめぐって』pp.62-72 東京大学総合研究博物館
- シンポジウム南関東の弥生土器実行委員会編 2005『南関東の弥生土器』考古学リーダー5 六一書房
- 加納俊介 p167
- 黒沢 浩 「5. 弥生町式と前野町式」 pp.49-55
- 松本 完 「4. 久ヶ原式」 pp.40-48
- 鈴木一郎 2001『峯前遺跡(第3次) 花ノ木遺跡(第4次) 吹上遺跡(第4次) 吹上原遺跡』和光市教育委員会
- 鈴木一郎 2003『吹上遺跡(第3次)』和光市埋蔵文化財調査報告書第30集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 鈴木一郎 2004『四ツ木遺跡(第4次)』和光市埋蔵文化財調査報告書第34集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 鈴木孝之 1991『代正寺・大西』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第110集 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木 徹・他 2006『成増百向遺跡第5地点』扶桑レクセル 共和開発 アルケーリサーチ
- 鈴木敏弘・他 1981『成増一丁目遺跡発掘調査報告』成増一丁目遺跡調査会
- 鈴木敏弘 1995『赤塚氷川神社北方遺跡』『板橋区史 資料編1 考古』pp.430-453 板橋区
- 立花 実 2009「Ⅱ 討論の記録 7. 大磯町馬場台遺跡第19地点の資料をめぐって」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』考古学リーダー16 pp.164-168 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房
- 照林敏郎・他 2008『稲荷山・郷戸遺跡第8地点発掘調査報告書』朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書第26集 朝霞市教育委員会
- 照林敏郎・江原順・他 2012『中道・岡台遺跡第3地点発掘調査報告書』朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集 朝霞市教育委員会
- 轟 直行 2017「菊川式土器の成立に関する研究」『古代文化』VOL.69pp.22-40 公益財団法人 古代学協会
- 中嶋郁夫 1988「いわゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討」『転機』2号 pp.119-150
- 中嶋郁夫 1991「東海地方東部における後期弥生土器の「移動」・「模倣」—「菊川様式」編—」『東海系土器の移動から見た東日本の後期弥生土器』『転機』4号 pp.75-94 第8回東海埋蔵文化財研究会
- 早坂廣人 1991「第4章 北通遺跡第38・39地点」『富士見市遺跡群Ⅸ』富士見市文化財報告第41集 埼玉県富士見市教育委員会
- 原 祐一 2009『東京大学本郷溝内の遺跡 浅野地区Ⅰ』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書9 東京大学埋蔵文化財調査室
- 堀 善之 2005「東台遺跡第24地点」『富士見市内遺跡ⅩⅢ』富士見市文化財報告第57集 埼玉県富士見市教育委員会

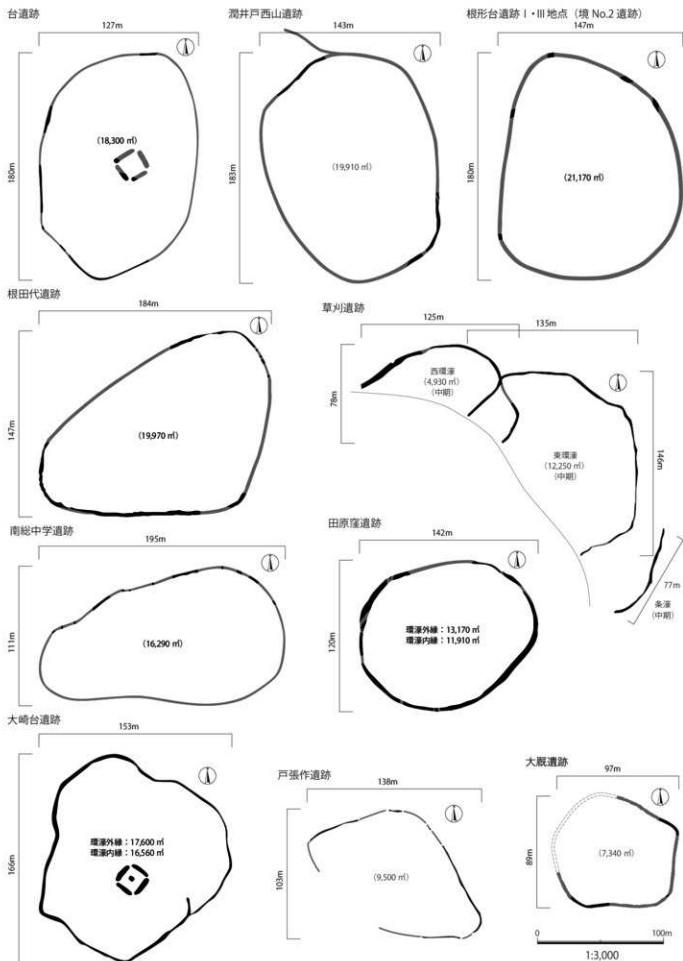
- 古屋紀之 2015「南武蔵地域における弥生時代後期の小地域圏とその動態」『列島東部における弥生後期の変革～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』考古学リーダー 24 pp.19-35 西相模考古学研究会 西川修一・古屋紀之編 六一書房
- 古屋紀之 2018「久ヶ原・弥生町問題再論」『西相模考古』第 27 号 pp.41-67 西相模考古学研究会
- 牧田 忍 1998『花ノ木遺跡第 2 次 城山遺跡』和光市埋蔵文化財調査報告書第 21 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 松本 完 1996「第 4 章 第 1 節 出土土器の様相と集落の変遷」『下戸塚遺跡の調査』第 2 部 pp.581-647 早稲田大学校地埋蔵文化財調査室編 早稲田大学
- 松本 完 2007「武蔵野台地北部の後期弥生土器編年」『埼玉の弥生時代』pp.263-290 埼玉弥生土器観会編 六一書房
- 依田賢仁 2013『市場峽・市場上遺跡（第 18・19 次調査）』和光市埋蔵文化財調査報告書第 51 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 依田賢仁 2015『市場峽・市場上遺跡（第 24 次調査）』和光市埋蔵文化財調査報告書第 58 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会 11



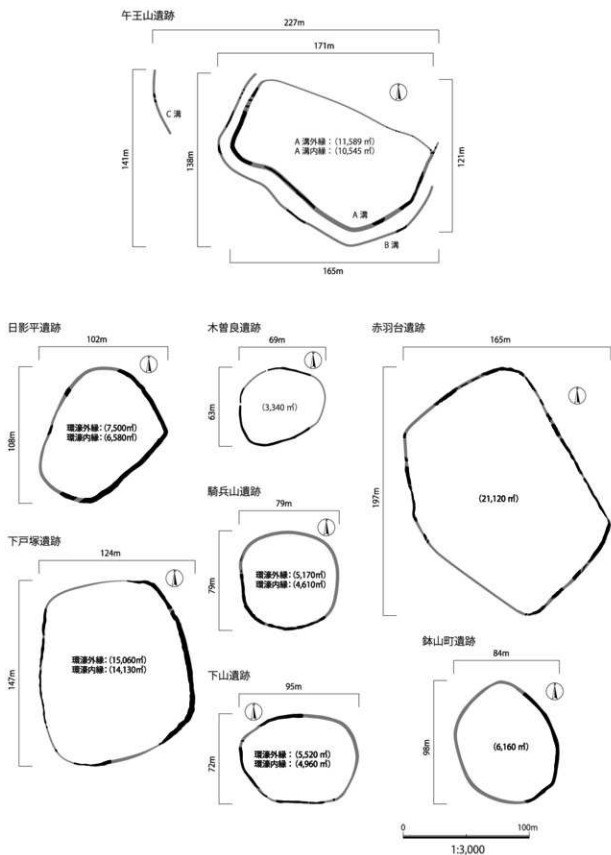




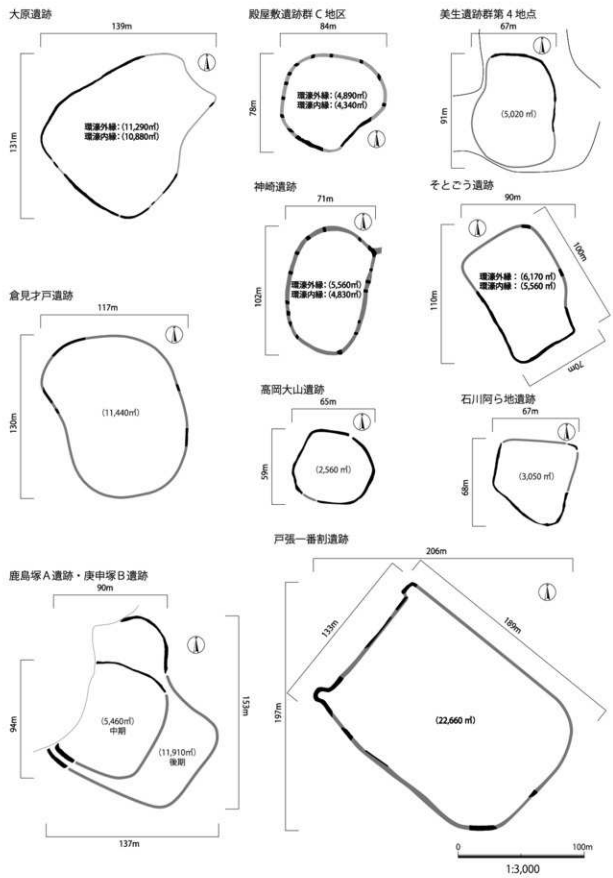
参考図 1 集落規模比較図 中期①



参考図 2 集落規模比較図 中期②



参考図3 集落規模比較図 後期①



参考図 4 集落規模比較図 後期②

## いにしへの音と祈りの音楽 ～銅鐸と尺八～



もとなが ひろし  
元永 拓

もとなが ひろし  
元永 拓

山口県宇部市出身 埼玉県和光市在住

琴古流尺八奏者

特定非営利活動法人日本音楽集団理事・運営委員長、上智大学箏曲部講師

幼少よりバイオリンを習っていたが、約9年間海外で過ごした経験から日本文化に対して深い興味を抱くようになり、大学入学と同時に尺八を始める。琴古流尺八を大橋伶晴氏、菅原久仁義氏に師事。

上智大学外国語学部、NHK 邦楽技能者育成会第4期を卒業した後、演奏家として活動を開始。

2010年の上海国際博覧会、2008年にオーストラリアで開催された「World Shakuhachi Festival」に招待演奏家として招聘されるなど、40ヶ国50都市で海外公演を行っている。

新・純邦楽ユニット「WASABI」(<http://www.japan-wasabi.jp>)などを主宰または参加。

TBSテレビ「EXILE 魂」にて南三陸町復興音楽祭で被災された地元太鼓チームと吉田兄弟と共演などテレビ、ラジオ出演多数。

NPO法人日本音楽集団理事兼運営委員長。また、後進の育成のため東京近郊3カ所で尺八教室を主宰する。

公式webサイト <http://motonagahiromu.com>

## いにしへの音と祈りの音楽 ～銅鐸と尺八～



滝野瀬 あゆか

滝野瀬 あゆか

群馬県桐生市出身。俳優、尺八奏者。

ぐんま国際アカデミーにて国際バカロレアディプロマプログラム修了。上智大学文学部卒業。

大学入学後、琴古流尺八を古屋輝夫、元永拓に師事、演奏活動を始める。

現在は東京を拠点に主に俳優として活動している。舞台や企業の映像、ドラマ、映画、CMなどに携わる。



●令和2年度から令和3年度の2か年をかけ「史跡 午王山遺跡保存活用計画」を作成



図1 保存活用計画策定委員会



図2 保存活用計画策定委員会 現地視察



図3 史跡 午王山遺跡保存活用計画

	短期 (令和4年度～8年度)	中期 (令和9年度～13年度)	長期 (令和14年度～18年度)
保存事業	史跡の維持管理		
	追加指定・指定地公有地化		
	独立丘の保護・自然環境・景観の保護		
整備事業	整備基本計画	基本設計・実施設計	第1期整備
史跡公園としての 供用			部分供用

図4 事業工程表（長期的イメージ） ※史跡午王山遺跡保存活用計画から抜粋







圖1 第2次A溝(旧2溝)遺物出土狀況



圖2 第2次A溝(旧1溝)遺物出土狀況



圖3 A溝(旧1溝)北側遺物出土狀況





図1 第1次調査方形周溝墓確認状況



図2 第2次調査空中写真



図3 第3次調査 左からA溝・A溝遺物出土状況・B溝



図4 第4次調査B溝



図5 第6次調査



図6 第9次調査



図7 第2次調査C溝



図8 昭和48(1973)年頃の午王山(和光高校から)





## 保存



図1 午王山遺跡調査指導委員会



図2 午王山遺跡調査指導委員会（発掘現場視察）

## 活用



図3 現地見学会



図4 出土遺物の展示



図5 歴史講座



図6 和光市デジタルミュージアム れきたま



## 整備 午王山遺跡



図7 QRコード入りの看板



図8 説明版の設置



図9 暫定整備の状況



図10 暫定整備の状況

## 他市の事例



図11 大塚・巖勝土遺跡公園（横浜市）住居の復元



図12 黒浜貝塚（津田市）住居跡の標示



図13 神崎遺跡資料館（綾瀬市）



図14 神崎遺跡公園（綾瀬市）環濠跡の標示

国史跡指定記念 午王山遺跡展

記念講演会・関連講座 資料集

発行 令和5（2023）年10月7日  
編集・発行 和光市教育委員会（担当：生涯学習課）  
〒351-0192 埼玉県和光市広沢1-5  
電話 048-464-1111  
印刷 関東図書株式会社